



きらきら Eyeランド
JA庄内みどり

安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第12号

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

稲刈り後からの作業が重要！ ～極端な気象に備えた対策を～

今年はお穂後、高温多照で経過したため刈取りは例年より一週間程度早く始まりましたが、刈取期間中の降雨もあり、9月末で概ね7割程度終了しています。

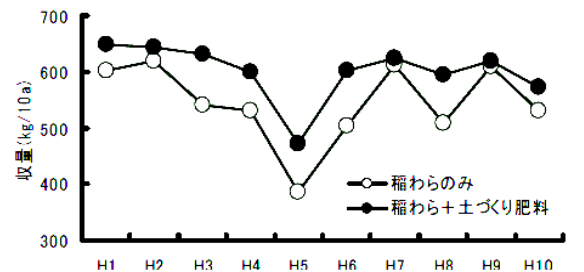
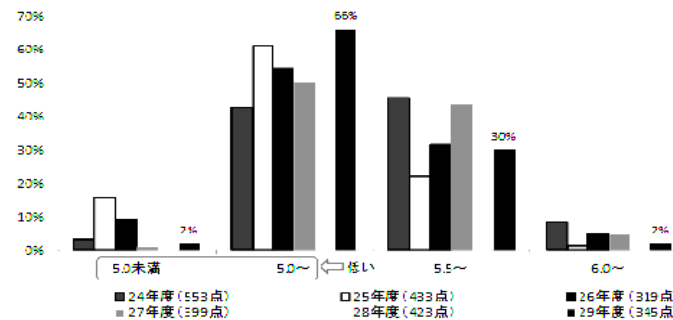
出穂後、連日の猛暑・高夜温、降水量が極端に少ないことが影響し、品質は大幅に低下しています。特に白未熟粒（乳白粒・基部未熟粒・背白粒）が多く高温障害による発生となっています。収量は品種間差はありますが平年よりやや少なく、くず米も少ないと思われます。

収穫後は、極端な気象変動の影響を最小限に抑えるため、また、品質・食味・収量のすべて揃った米の生産を目標に、秋耕・土づくりを継続的に実施しましょう。

近年、多くのほ場で土壌の酸性化が進んでいることから、土壌pHの適正化が急務となります。酸性化した土壌の改善（地力の回復・向上）を図るため、土壌pHの年間0.1以上アップを目標に土壌のメンテナンスを実施しましょう。

※当JAでは「土づくり支援事業」を展開中です。積極的にご活用ください。

管内の現況：土壌pH5.42（平均） → 適正值：土壌pH5.5～6.0



○ pHは土づくりをしないと低下します！

pHが低下すると ⇒リン酸の肥料効率が低下
⇒稲わらを腐熟させる微生物の働きが鈍くなる

技、其の一 秋耕を実施しましょう！

今年はお刈りが例年より早く、気温も高かったため、この時期としては「ひこばえ」がかなり大きくなっています。

例年より多い「ひこばえ→枯れる→有機物」が春先になって土中にすき込まれると、ワキが激しくなることが懸念されます。

田ワキを軽減するには、**稲わらの腐熟促進が重要**です。

○秋の浅耕（5cm程度）

稲わらを土壌と混和し、土壌微生物の働きを高め、腐熟・分解を促進しましょう。気温が高いほど腐熟・分解が進むため**実施時期が早いほど効果が高まります**。

○稲わら腐熟促進資材（秋散布）…田ワキの抑制に効果的です。

資材名	アグリ革命	ワラ分解キング	石灰窒素
使用量 (税込参考価格)	2kg/10a (@2,794円/2kg)	10kg/10a (@2,277円/10kg)	10kg/10a (@5,291円/20kg)
使用時期	・原則、秋施用 ・春施用の場合は田植え1カ月前までに散布	・原則、秋施用 ・春施用の場合は代かき45日前までに散布後、速やかにすき込む	・秋施用のみ ・散布は10月下旬まで ・稲わらの分解 10kg/10a
備考	・散布のみでもよいが、稲わらをすき込むとより効果的	・低温時でも稲わら分解に効果発揮	・つや姫圃場に施用する場合は、地力が高い圃場等には控える

※降雨後など、稲わらが湿った状態に散布するとより効果的です。

※特別栽培米に使用する場合是最寄りの営農課に事前にご確認ください。

技、其の二 積極的な土づくりを実施！

土づくりを基本とした米づくりが大切です。特に「つや姫」は高級ブランド米として品質・食味の安定は必須です。積極的に施用しましょう。

○土づくり資材…pH矯正とケイ酸の補充

資材名	農力アップ	てんろ石灰	とれ太郎	天の恵み14号
使用量 (税込参考価格)	60kg/10a (@1,386円/20kg)	100kg/10a (@869円/20kg)	60kg/10a (@2,794円/20kg)	100kg/10a (@1,364円/20kg)
使用時期	・原則、秋施用 ・春施用の場合は耕起前までに散布			
備考	・ケイ酸(20%)、苦土、微量元素を配合した新総合土づくり肥料	・ケイ酸(14%程度)や微量元素を含み、主にpH矯正を目的とし、持続性が高い	・リン酸、苦土、ケイ酸(30%)、石灰を含んだ総合的な土づくり肥料	・ようりんとかイカルが同時散布できる土づくり肥料の定番(ケイ酸29%)

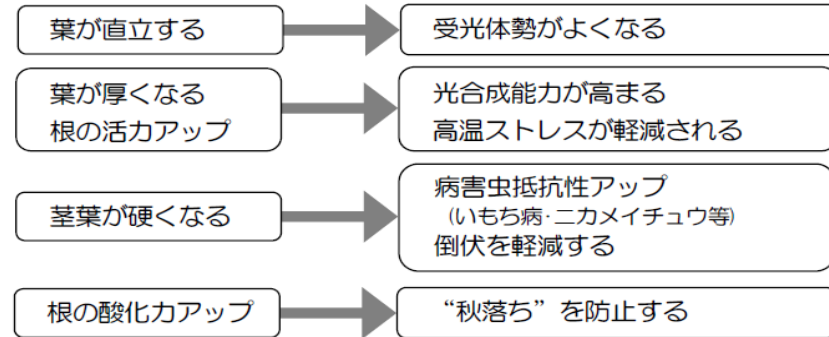
(裏面に続く)

効果的なケイ酸施用【基本施用《収穫後(秋)または融雪後～基肥施用時(春)》】

- ・ケイ酸成分で 30kg/10a を目標に「少しずつでも」「隔年でも」施用することが大切！
- ・ケイ酸以外の成分の効果（pH 矯正、稲わら腐熟促進など）や、作業効率から秋施用がベスト！
- ・**稲刈り後、できるだけ早く施用することが腐熟促進には効果的**ですが、秋に散布できなければ春施用を！

《ケイ酸の効果》

水稻は、窒素の10倍ものケイ酸を吸収するケイ酸要求量がきわめて高い植物です。ケイ酸の施用により、次のような効果が得られ、**気象変動時にはより効果が高まります。**



技、其の三 大豆の刈取り適期を逃さない！

成熟期後20日を過ぎると、しわ粒が発生しやすくなり、急激に品質が低下します。**高品質な大豆を収穫できるよう適期刈取りを徹底しましょう。**

大豆収穫の目安（コンバイン収穫）

品 種	成熟期	刈取り適期
エンレイ	10/ 7頃	10/14～27
里のほほえみ	10/14頃	10/21～11/3



図 刈取り適期の目安

★ コンバイン収穫のポイント

- ・コンバイン収穫の適期は子実水分が17%以下で、おおよそ成熟期後7日以降です。**雑草や青立株は汚損粒発生の原因となるので、刈取り前に必ず抜き取りましょう！！**
- ・**刈取り時は土による汚損が発生しないよう刈高に注意しましょう。**
- ・収穫した大豆については、施設への搬入（出荷）までの期間、変質等に十分注意し、一時保管をお願い致します。

【農業に関する野焼き行為への注意・配慮のお願い！】

例年、春と秋に、**野焼きの煙や臭いによる苦情が多く寄せられます。**野焼きは原則禁止されていますが、農業を営むためにやむを得ず行われるもみ殻の焼却（燻炭作り）等は例外として認められています。その際は事前に近くの消防署へ連絡し、火災に留意するとともに、場所や時間帯、煙の量、風の向き・強さ等に注意のうえ、近隣住人の迷惑にならないよう十分配慮し、適切な対応をお願いします。ただし、**住宅の密集地・隣接地の場合は、行政指導の対象となります。**

柿の収穫が始まります！



①今年、9月以降の平均気温が平年より高く推移したことから、着色はやや遅い傾向です。そのため、昨年より2日遅い10月14日から柿の集荷が始まります。出荷基準に基づき作業を行いましょ。

②各地で、台風・ゲリラ豪雨等、異常気象が発生しています。天気予報に十分注意しましょう。

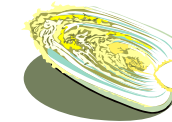
また、雹害対策の為の防雹ネットを早めに設置しましょう。

③脱渋中の汚損果防止の為、果実の取り扱いには十分注意しましょう。

{降雨時に収穫した場合は、果実に付着した水分（結露）が汚損果の原因となります。十分乾燥させてから出荷しましょう}

④施肥は、**10月上旬までに樹勢、土壌条件に応じて実施しましょう**

通常の施肥の目安は、3年枝先端の新梢が、「平核無」で20cm～35cm、「刀根早生」で30cm～40cmの場合、窒素成分で12kg/10aです。



『娃娃菜』の管理について

現在生育中の秋冬娃娃菜は、夏場の高温により定植作業が遅れましたが、その後は適度な降雨もあり順調に生育しております。今後は、次の点に注意してください。

- ・病虫害防除：コナガの発生が見受けられます。コナガ・ヨトウムシは発生初期に防除し、食害（葉の穴あき）を防いでください。
- ・追 肥：結球前から液肥及びカルシウム資材を5～7日間隔で2～3回葉面散布を行い、葉の黄化や縁腐れを予防しましょう。
- ・排水対策：圃場の排水対策を徹底し、湿害による生育停滞や根腐れを防ぎましょう。
- ・出荷調整：泥汚れ等を綺麗に拭き取り、切り口の乾燥をしっかりと行いましょう。また、出荷規格を遵守し、収穫遅れの無いようにしましょう。